

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月14日



IWAKI

株式会社イワキ 証券コード:6237
銘柄名:イワキポンプ

I . 2026年3月期 決算概要 P.3

II . 2027年3月期 業績見通し P.15

III . 中期経営計画2027 P.22

IV . Appendix P.29

用語説明

会計 四半期（3カ月間）会計期間のこと。

累計 年間（12カ月）累計期間のこと。

I. 2026年3月期 決算概要

2026年3月期 決算サマリー



国内の医療機器市場、米国の水処理市場などが牽引したほか、半導体・液晶市場の復調も貢献し、連結売上高は前年比+4.2%。各段階利益も前年比プラスとなり、増収増益で着地した。

	2025. 3 期		2026. 3 期	
	金額(百万円)	金額(百万円)	差額	増減率(前年比)
売上高	45,763	47,692	1,929	+4.2%
売上総利益 (売上総利益率)	18,498 (40.4%)	19,070 (40.0%)	572	+3.1%
営業利益 (営業利益率)	5,845 (12.8%)	5,924 (12.4%)	79	+1.4%
経常利益	6,517	6,724	207	+3.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,468	4,835	367	+8.2%
1株当たり当期純利益	202.15円	218.14円	16.00円	+7.9%
自己資本当期純利益率(ROE)	12.6%	12.2%	—	(▲0.4pt)
投下資本利益率(ROIC)	11.7%	11.1%	—	(▲0.6pt)
為替レート (期中平均)	ドル	151.69円	149.62円	
	ユーロ	164.04円	169.19円	
	中国人民幣元	21.03円	20.81円	

1

売上高:医療機器・水処理・化学市場が牽引し、増収。

- 国内は医療機器市場が前年比+20.2%、米国は水処理市場が前年比+7.2%。
欧州は化学市場が前年比+7.7%と好調に推移し、上記3市場は上場来最高売上高を記録。
- 半導体・液晶市場は、台湾・韓国のほか中国でも回復基調に転じつつあり、前年比+6.2%で着地。
- 特に多用途なマグネットポンプ・定量ポンプは、上場来最高売上高となった。

2

営業利益:在庫適正化への取り組みの影響を受け、前年比+1.4%の微増。

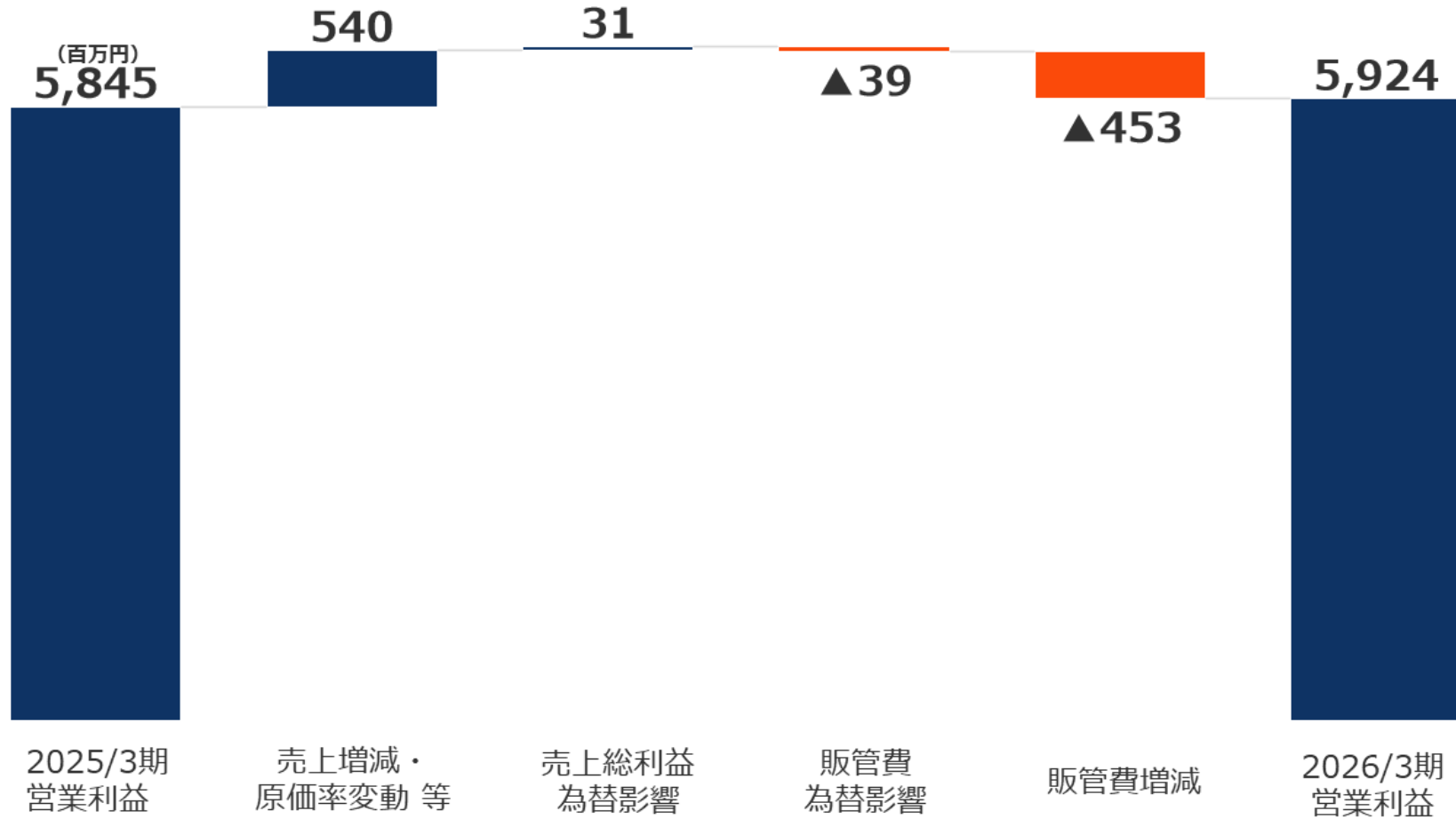
- 在庫払出しおよびそれに伴う生産調整の影響を受け、売上原価は前年比で僅かに上昇したものの、売上総利益は前年比+3.1%の増益であった。
- 研究開発費等の増加に伴い、販管費は前年比+3.9%。営業利益は前年比+1.4%に留まった。

3

親会社株主に帰属する当期純利益:持分法による投資利益、為替差益の影響が大きく、+8.2%の増益。

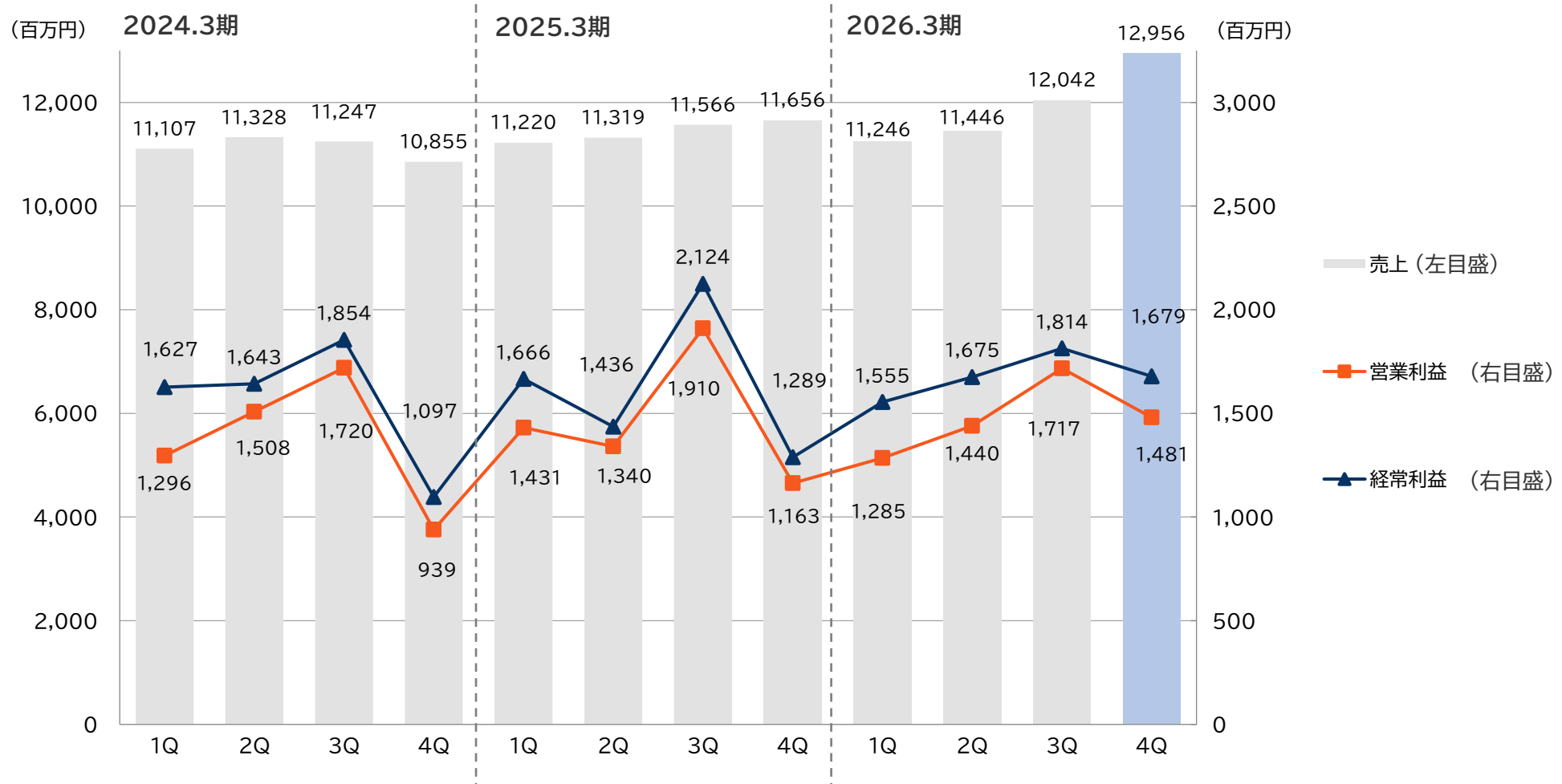
- 特に半導体・液晶市場が好調な台湾の貢献により、持分法による投資利益が増加。
- 為替差益の影響も大きく、利益が押し上げられ、
親会社株主に帰属する当期純利益は前年比+8.2%の増益。

2026年3月期 増減益分析



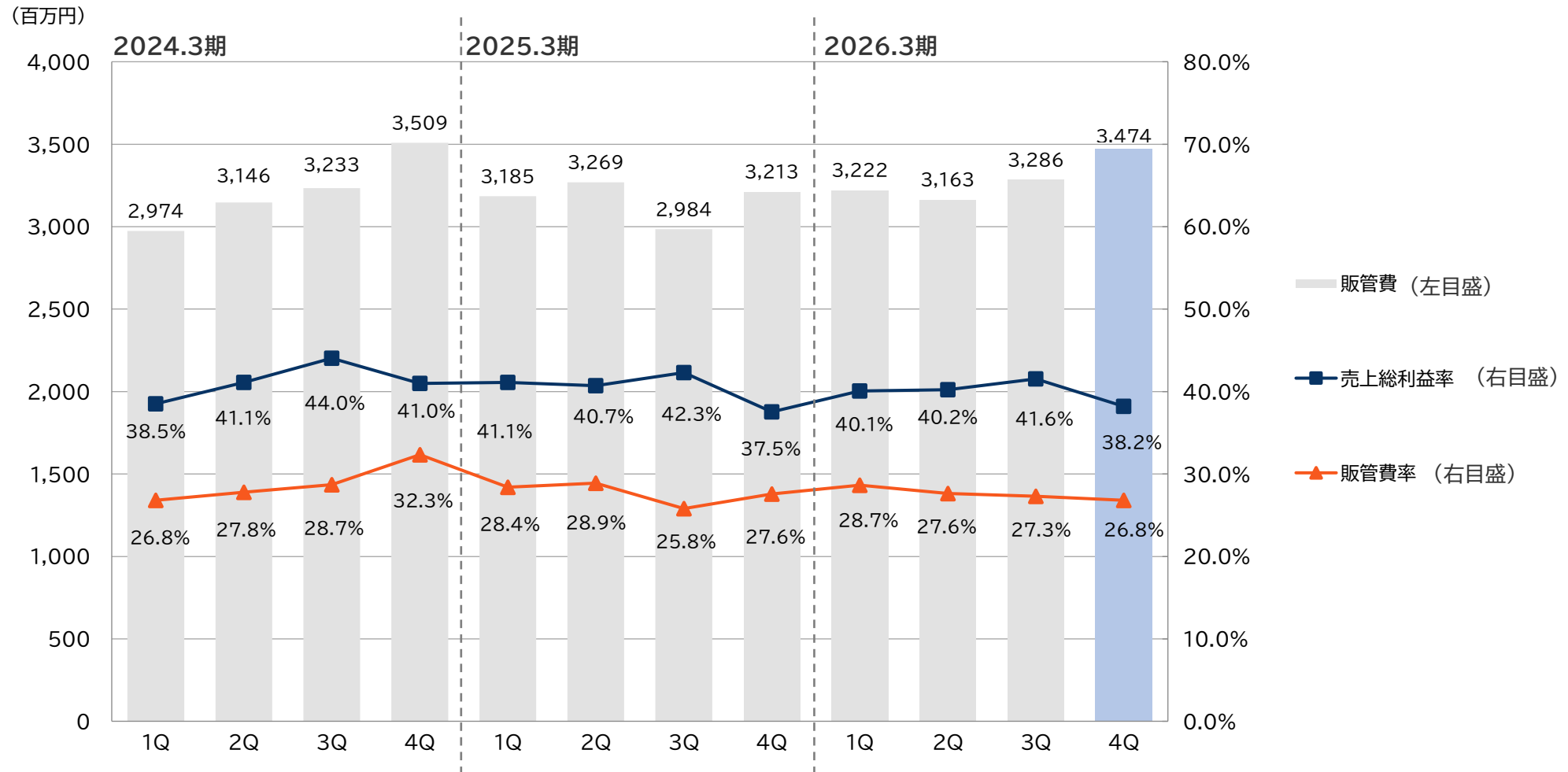
売上高・営業利益の推移(四半期ベース)

四半期ベースの売上高として過去最高を記録。
賞与引当金等の販管費増はあるが、増収効果により、利益への影響は限定的。









売上総利益率・販管費(率)の推移(四半期ベース)

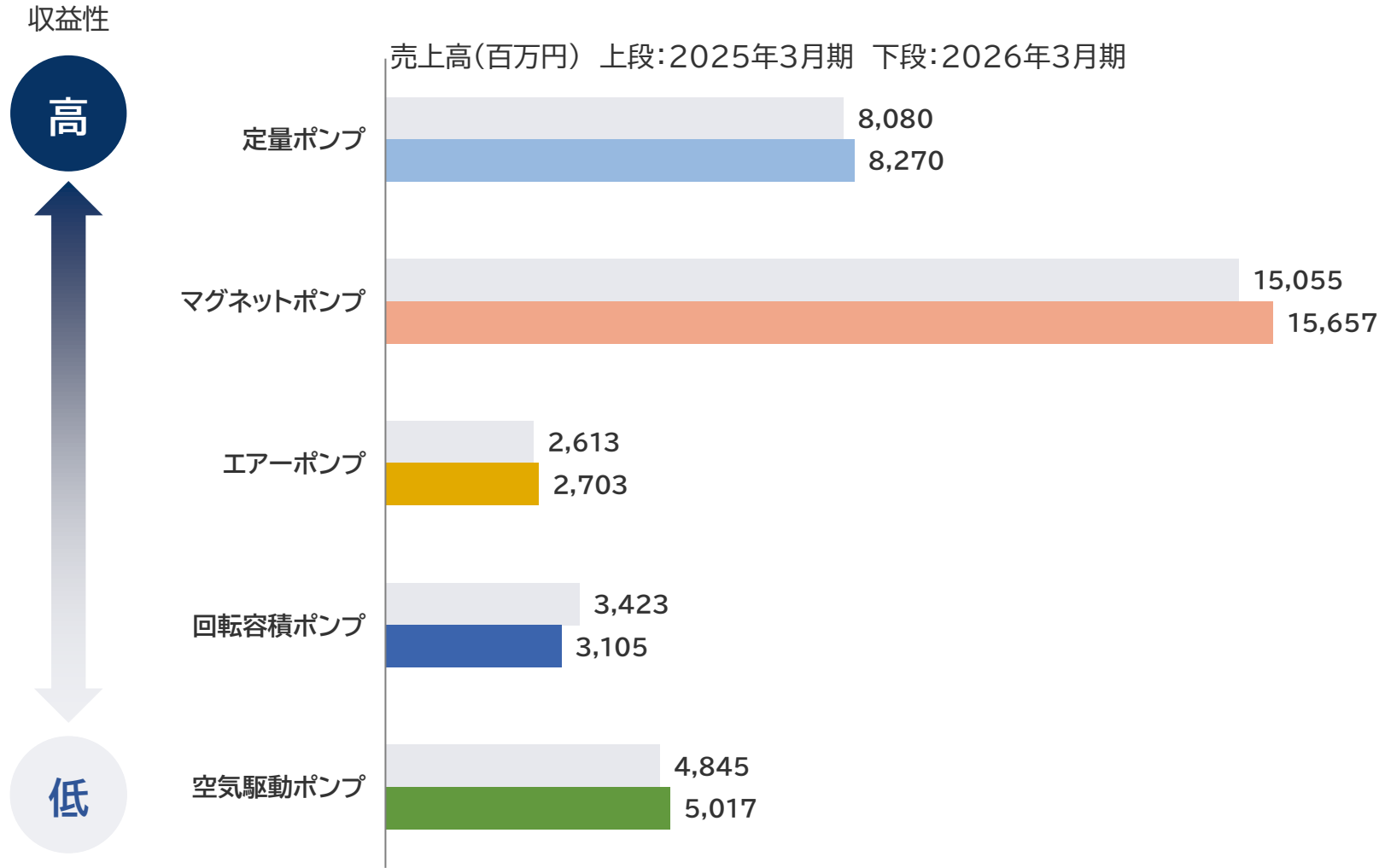
売上原価に含まれる労務費(賞与引当金等)増加の影響により、売上総利益率は微減。



製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	●	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし:各市場におけるメインポンプ

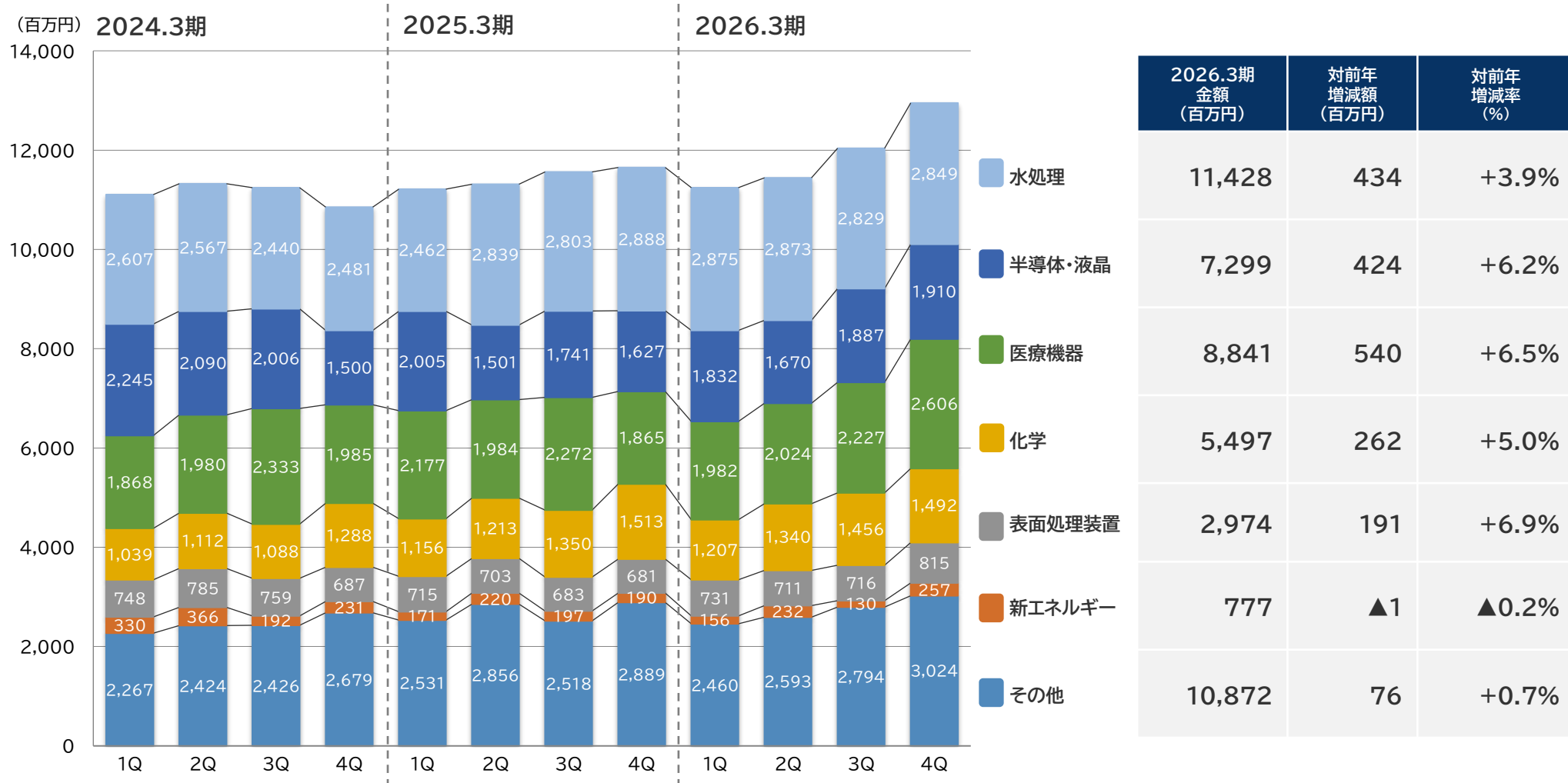


※システム製品、仕入商品、その他除く

市場別売上高

会計 医療機器市場は直前四半期に引き続き国内が好調に推移。

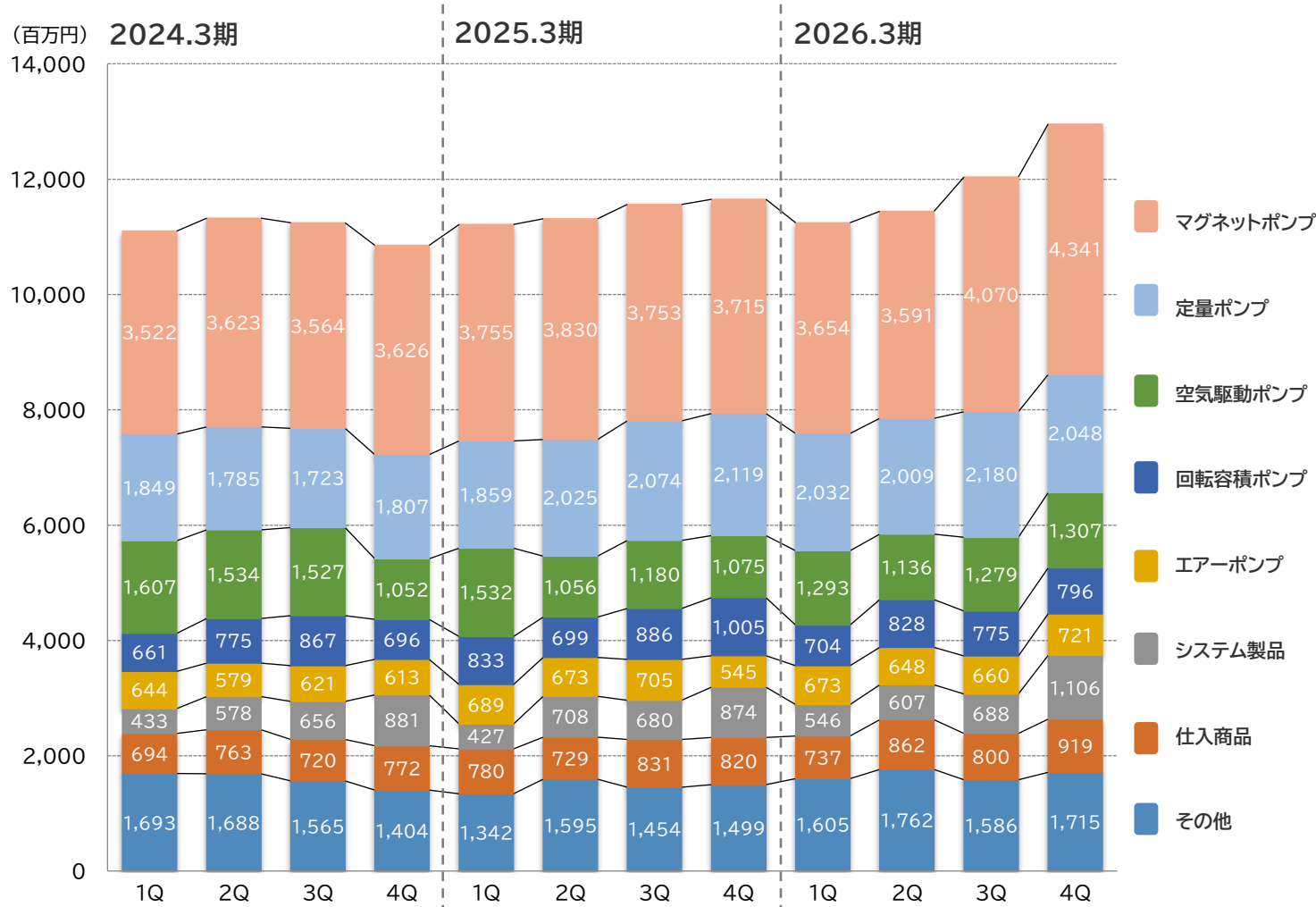
累計 半導体・液晶市場は中国が下期回復基調にあり前年比増。医療機器市場は国内が下期にかけて好調であり、前年比増。



製品別売上高

会計 医療機器市場にて使われるマグネットポンプが国内の同市場の好調を受け、直前四半期比増。

累計 累計期間においても、会計期間と同様の傾向がでており、マグネットポンプが前年比増。
半導体・液晶市場で使われる空気駆動ポンプも同市場の回復影響を受け、前年比増。



	2026.3期 金額 (百万円)	対前年 増減額 (百万円)	対前年 増減率 (%)
磁石ポンプ	15,657	602	+4.0%
定量ポンプ	8,270	189	+2.4%
空気駆動ポンプ	5,017	172	+3.6%
回転容積ポンプ	3,105	▲318	▲9.3%
エアーポンプ	2,703	89	+3.4%
システム製品	2,948	256	+9.5%
仕入商品	3,320	159	+5.0%
その他	6,669	778	+13.2%

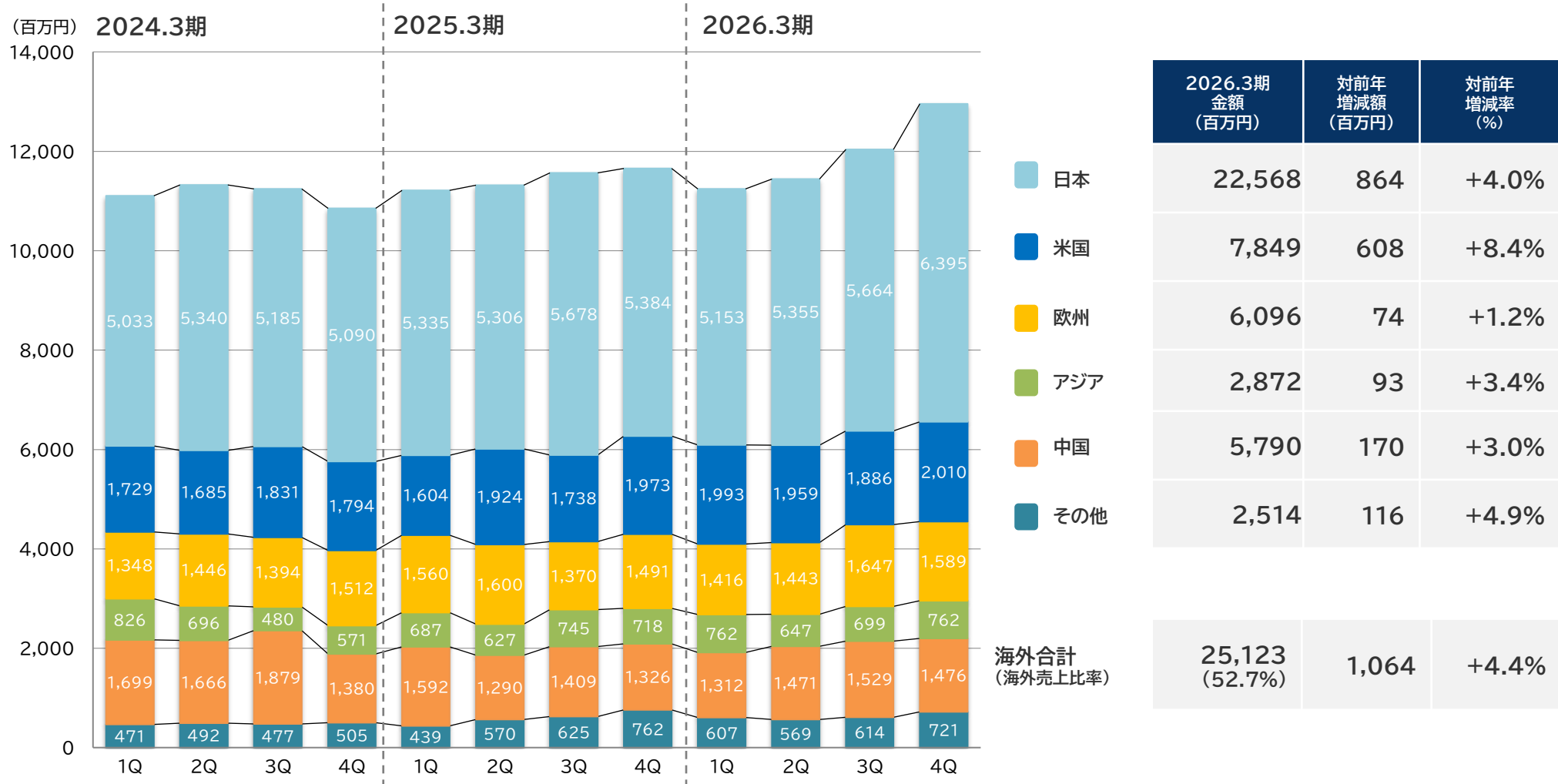
地域別売上高

会計

国内は医療機器市場を中心に直前四半期比で好調に推移し、四半期別で上場来最高売上高を記録。

累計

国内は医療機器市場の伸長の影響を受け前年比増、米国は水処理市場を中心に順調に推移した。



設備投資・研究開発費・減価償却費推移(半期毎)



	2026.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
設備投資	894	▲906
研究開発費	921	50
減価償却費	1,264	16

※2025.3期2Q設備投資額の大幅増は、主にイワキアメリカの建物賃貸借契約更新によるものです。

Ⅱ. 2027年3月期 業績見通し

2027年3月期 業績予想

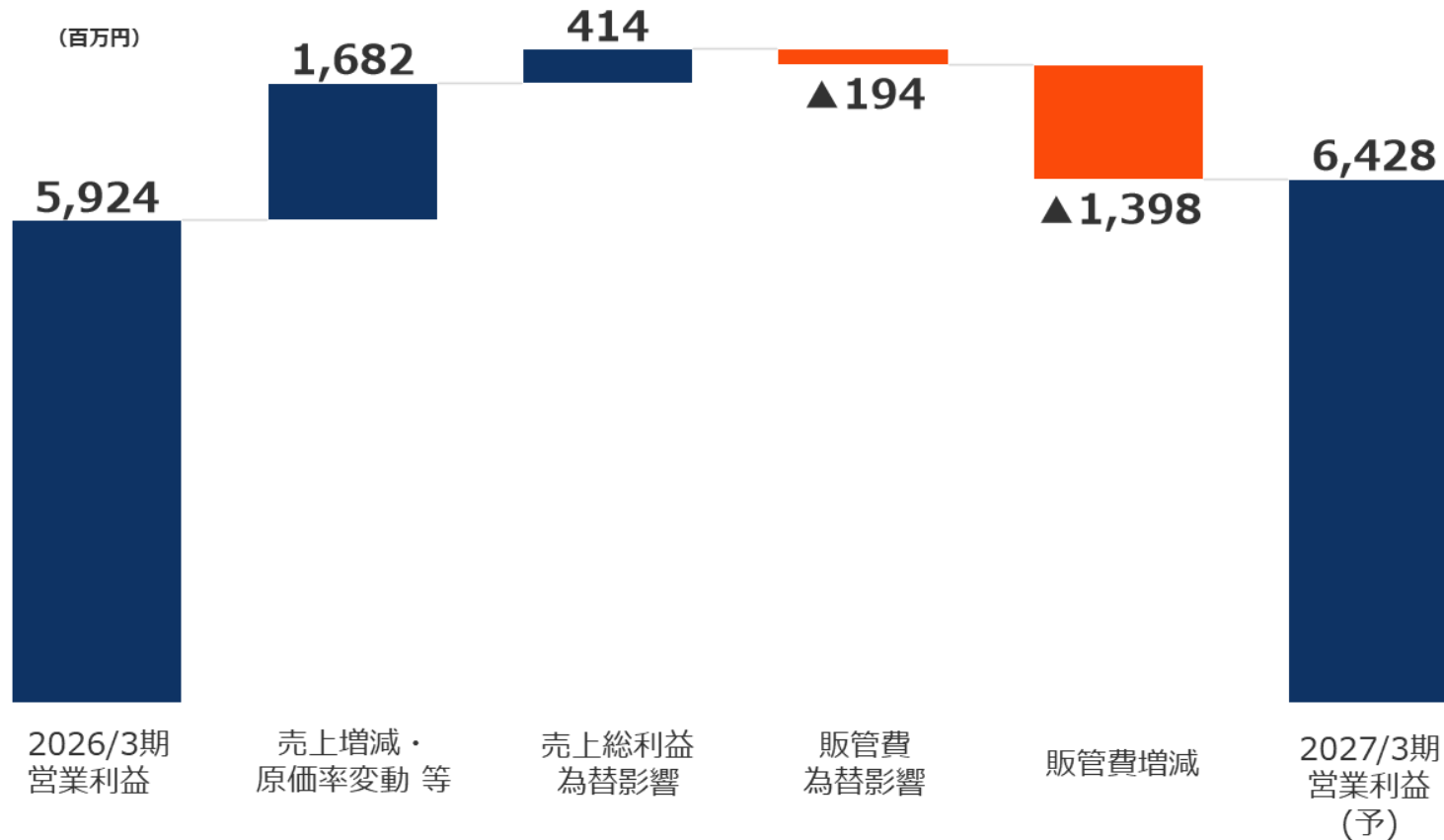


水処理市場、医療機器市場の順調な伸び、半導体・液晶市場の復調を想定。
 増収効果により売上原価も改善し、営業利益も順調な伸び。
 経常利益は増益基調を維持するが、為替差益が発生した前期と比較すると、利益幅は縮小。

	2026.3期		2027.3期	
	金額(百万円)	金額(百万円)	差額	増減率(前年比)
売上高	47,692	50,959	3,266	+6.8%
売上総利益 (売上総利益率)	19,070 (40.0%)	21,167 (41.5%)	2,096	+11.0%
営業利益 (営業利益率)	5,924 (12.4%)	6,428 (12.6%)	503	+8.5%
経常利益	6,724	6,986	261	+3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,835	5,149	314	+6.5%
1株当たり当期純利益	218.14円	231.94円	13.79円	+6.3%
自己資本当期純利益率(ROE)	12.2%	12.0%	—	(▲0.2pt)
為替レート (期中平均)	ドル	149.62円	151.00円	
	ユーロ	169.19円	177.00円	
	中国人民幣元	20.81円	21.30円	

2027年3月期 業績予想 増減益分析

通期: 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	中国人民元
売上	75百万円	39百万円	301百万円
営業利益	20百万円	15百万円	143百万円



各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> ・官需新規案件、修繕案件が鈍化。民需は一般産業廃水が好調を継続。 ・インバウンド需要の増加に伴い、滅菌市場、イオン水市場が好調。 ・食の安心安全、災害対策等の観点より、水耕土耕栽培市場、pH管理市場が好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害対策に関する上下水道の整備投資が堅調。 ・一般産業向けでの設備投資が堅調。
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> ・EV鈍化に伴い、関連市場への投資も鈍化。 ・水素/カーボンニュートラル関連は大型投資撤退も目立つが、開発需要は堅調。 ・家庭用燃料電池は国の補助金もあり生産は回復傾向だが、在庫調整が続き、見通しは低調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州、中国でEV車の販売が回復基調であるが、バッテリー設備投資は低調な状況で需要減速。 ・欧州・中国では水素/CO2回収の投資が増加傾向。 ・米国では系統蓄電関連への投資が継続。
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> ・中東情勢の影響を受け、各社とも部材調達懸念が顕在化してきており、供給懸念が付随されている。 ・中東情勢、米中関係の懸念を筆頭に、世界情勢の先行き不透明感が浸透している反面、欧州・北米需要が緩やかな回復基調にある。 ・人工透析装置については欧州・中南米向けが緩やかな回復傾向にある。 ・内視鏡洗浄装置については横ばいとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場全体としては、装置メーカー各社における在庫調整が進みつつあり、一部に持ち直しの動きが見られるが、回復のペースは引き続き緩やかなものに留まる。 ・物流の混乱は徐々に沈静化の兆しを見せているものの、米中関係や中東情勢など地政学的リスクを含む世界情勢の不確実性は依然として高く、予断を許さない状況が続いている。
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の装置メーカーでは在庫調整が継続するものの、メモリを中心とした生成AI用途向け設備投資の伸長に伴い、市場の回復が見込まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリを中心とした生成AI用途向け設備投資の伸長に伴い、堅調に推移することが見込まれる。
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬/化粧品、石油化学、農薬肥料などが好調。 ・市場全体として堅調に推移。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州は大手化学メーカーの投資案件があるものの、中東情勢とエネルギーコスト増加による影響で先行き不透明。 ・米国の関税政策による市場影響の懸念が継続。
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資加速により回復傾向。 ・AI関連向け投資堅調で好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AI投資増加により回復増加傾向。

※ 赤字はネガティブな見通し

2027年3月期 市場別売上高予想

水処理市場、医療機器市場、化学市場は順調に推移し、半導体・液晶向けも回復基調にあると想定。

	2026.3期 実績 (百万円)	2027.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ 水処理	11,428	12,230	902	+7.9%
■ 半導体・液晶	7,299	7,693	393	+5.4%
■ 医療機器	8,841	9,528	687	+7.8%
■ 化学	5,497	5,994	497	+9.0%
■ 表面処理装置	2,974	3,196	221	+7.5%
■ 新エネルギー	777	915	138	+17.8%
■ その他	10,872	11,299	426	+3.9%
合計	47,692	50,959	3,266	+6.8%

2027年3月期 製品別売上高予想

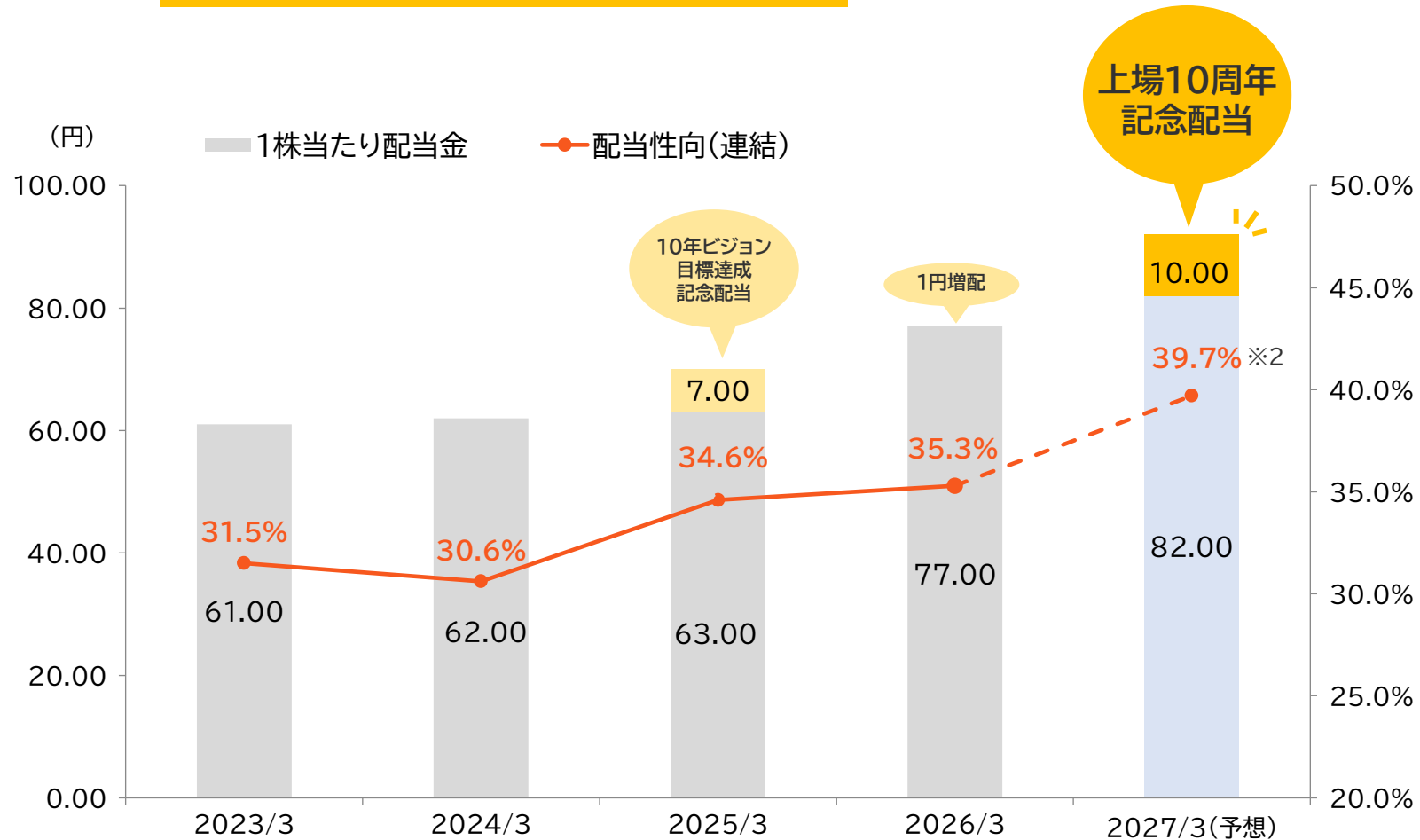
市場別売上高の想定を受け、関連する定量ポンプや空気駆動ポンプの伸長を見込む。

	2026.3期 実績 (百万円)	2027.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ マグネットポンプ	15,657	16,682	1,024	+6.5%
■ 定量ポンプ	8,270	8,853	583	+7.1%
■ 空気駆動ポンプ	5,017	5,509	492	+9.8%
■ 回転容積ポンプ	3,105	3,130	24	+0.8%
■ エアーポンプ	2,703	2,893	190	+7.1%
■ システム製品	2,948	2,951	3	+0.1%
■ 仕入商品	3,320	3,424	103	+3.1%
■ その他	6,669	7,513	843	+12.6%
合計	47,692	50,959	3,266	+6.8%

株主還元(配当方針)

基本方針: 配当性向35%以上・下限配当70円(2026年3月期~2028年3月期) ※1

2027年3月期: 上場10周年記念配当10円の実施(中間)



※1 なお、非経常的な特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、その影響を除いて配当金額を決定することがあります。

※2 実質配当性向: 35.4%(記念配当を除く)

Ⅲ. 中期経営計画2027

6つの重要テーマ		主要施策	取り組み内容
1	海外市場における水処理ニーズへの貢献拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 主軸となる定量ポンプの多様化によるグローバル展開 ● 海外未開拓地域への積極的展開 	水処理に特化した社内リソースを集約したプロジェクトを発足させ、グローバル展開に向けた検証を推進
2	水素をはじめとした次世代エネルギー社会づくりへのチャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> ● 水素サプライチェーンにおける流体制御ソリューションのニーズ探索 ● 水素以外の次世代エネルギーの立上げ動向・方向性の把握 	脱炭素に関する市場動向に注視しつつ、市場調査および高機能製品の試作を開始
3	グローバル製品の企画	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外ニーズに応じた品質の再定義と製品化への取り組み 	定量ポンプのグローバル規格への適合を見据えた新興国向けエントリーモデルの検討・開発
4	グローバル調達の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ● 調達リスクへの対応と海外調達の推進 	成型技術等のノウハウの獲得・蓄積を進め、調達リスクの低減を推進
5	DXによる生産性・働きやすさ向上	<ul style="list-style-type: none"> ● DXの実現を目指したIT基盤整備・活用の強化によるワークスタイルの効率化 	エンゲージメント調査を踏まえ、DX化を含めた働きやすさ向上に向けた改善施策を実行
6	ESG経営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● マテリアリティの実現を目指した取り組みの推進 	人事評価制度の刷新に向けて、性別や年次に関係なく、多様なキャリア形成を支援

重要テーマ①

海外市場における水処理ニーズへの貢献拡大

海外の水処理ニーズを踏まえ、アジア地域を中心としたターゲット国の選定および現地ニーズに基づく製品企画の検討および、タイ、フィリピン、韓国、ベトナムを対象に市場調査を実施し、需要・課題の精査および競合比較による品質要件の検討も進めた。
対象製品は定量ポンプとし、エントリーモデルの開発を通じて新興国ニーズへの対応とコスト競争力の強化を図り、アジア市場への展開を目指す。



重要テーマ②

水素をはじめとした 次世代エネルギー社会づくりへのチャレンジ

脱炭素に関する市場動向に注視しつつ、水素市場の調査を実施し、要求仕様の概略把握を行った。
あわせて、技術部門と海外営業部門が緊密に連携し、高機能製品の試作を進めるとともに、改良および課題を抽出。
同時並行で、水素市場以外の新エネルギー分野での用途の深掘りを行った。



重要テーマ③

グローバル製品の企画

重要テーマ①で抽出された海外水処理市場のニーズや課題を踏まえ、グローバル規格への適合性を見据えた新興国向けエントリーモデルの検討・開発を進めている。



重要テーマ④

グローバル調達の実現

成形技術等に関するノウハウの獲得・蓄積を進め、更なるコア技術の確立を見据えた取り組みを行うとともに、調達リスクの低減に向けた検討を進めた。あわせて、従来は国内工場(埼玉・三春)で生産していた製品について、海外工場におけるノックダウン生産への移行を進めた。



重要テーマ⑤

DXによる生産性・働きやすさ向上

DX推進プロジェクトを社内にて発足し、グループウェアの刷新に向けた選定を実施。あわせて、ペーパーレス化の推進やクラウドツールの活用についても検討・導入準備を進めた。
また、エンゲージメント調査を実施し、従業員の働きやすさ向上に向けた課題整理および施策検討を行った。



重要テーマ⑥

ESG経営の推進

マテリアリティに基づき、エンゲージメントスコアの向上および継続的な改善を目標とし、人事制度改革に向けた検討を進めた。具体的には、事業環境や人材構成の変化等を踏まえ、等級・賃金・評価制度の見直しを行い、制度運用開始に向けた準備を進めた。
あわせて、環境面ではCDPスコアの維持に向けた取り組みを進めるとともに、ガバナンス面では取締役会の実効性評価や情報開示の充実、コンプライアンス体制の強化等に取り組んだ。

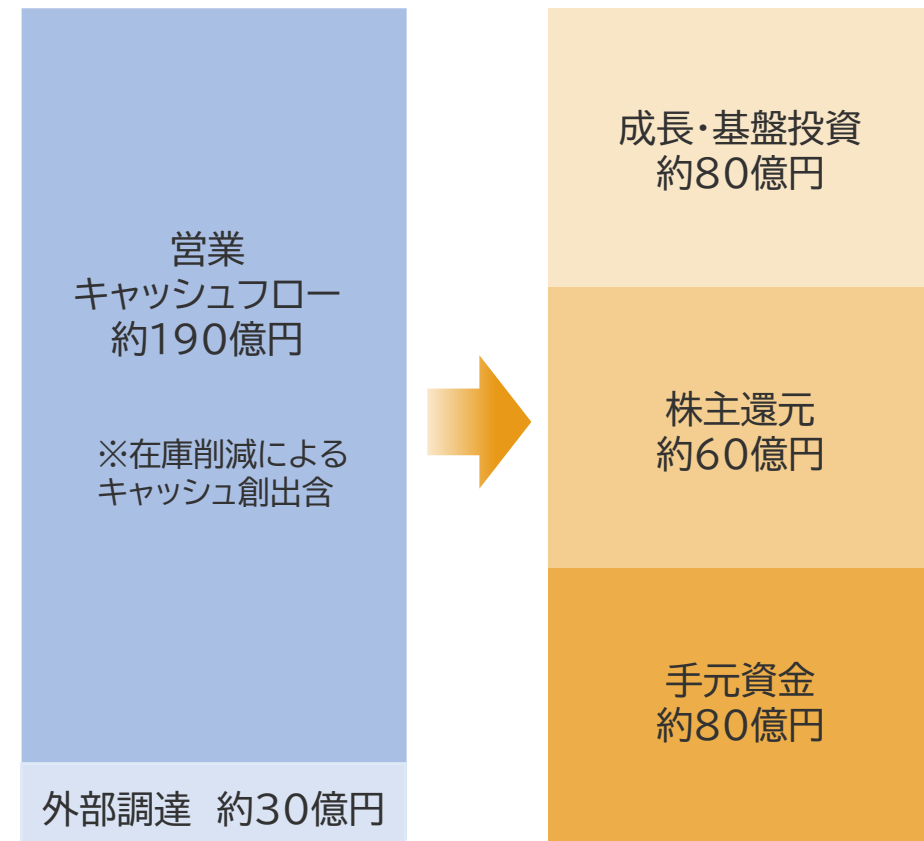


財務目標

キャッシュアロケーション

		2026.3期	2028.3期
		実績	目標
売上高		476億円	530 億円
国内	国内	225億円	235 億円
	海外	251億円	295 億円
営業利益		59億円	69 億円
営業利益率		12.4%	13%
ROE		12.2%	12%以上の維持
在庫回転日数		164.8日	150 日

2026年3月期～2028年3月期



「グローバル調達拡大」関連：在庫適正化への取り組み

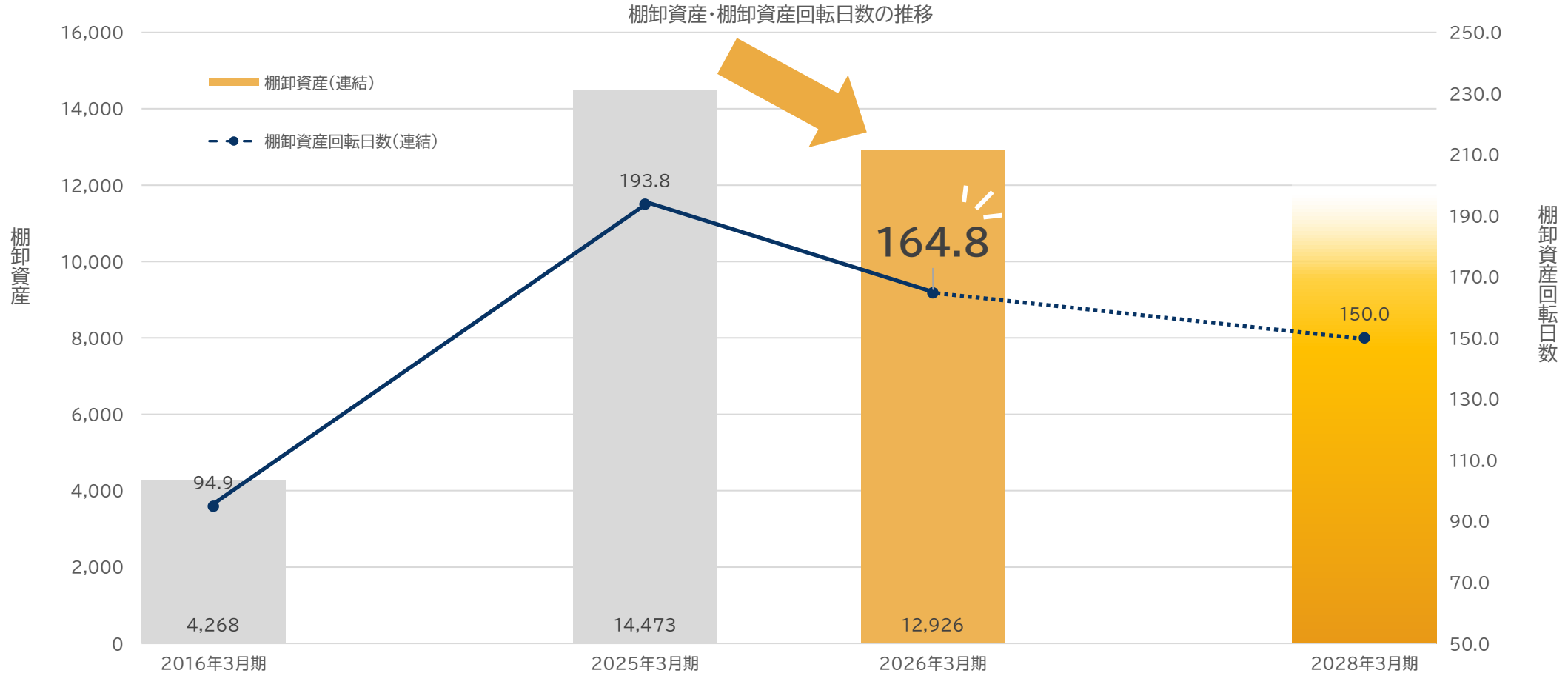
顧客満足度向上を目的とした納期短縮化の手段として在庫を増やす施策をとった。

納期短縮化には一定の効果があったが、需要の一部低迷に伴い、在庫金額が急速に増加しキャッシュ減少が生じている。

財務基盤の早急な正常化を目指し、在庫回転日数をKPIとして在庫の適正化を重要課題の一つとして取り組んでいく。

単位:百万円

単位:日



IV. Appendix

ケミカルポンプの
専門・総合メーカー

会社名 **株式会社イワキ** (英文名 IWAKI CO., LTD.)

代表者 代表取締役社長 藤中 茂

資本金 10億4,469万円

設立 1956年4月10日

本社所在地 〒101-8558
東京都千代田神田須田町2-6-6

従業員数 連結:1,146人/単体:790人
(2026年3月31日現在)

上場取引所 東京証券取引所
市場:東証プライム市場
銘柄名:イワキポンプ
証券コード:6237

事業内容 ケミカルポンプをはじめとする
各種流体制御機器の
開発・製造・販売





化学薬品等の **薬液移送・注入用途** に使用されるポンプ

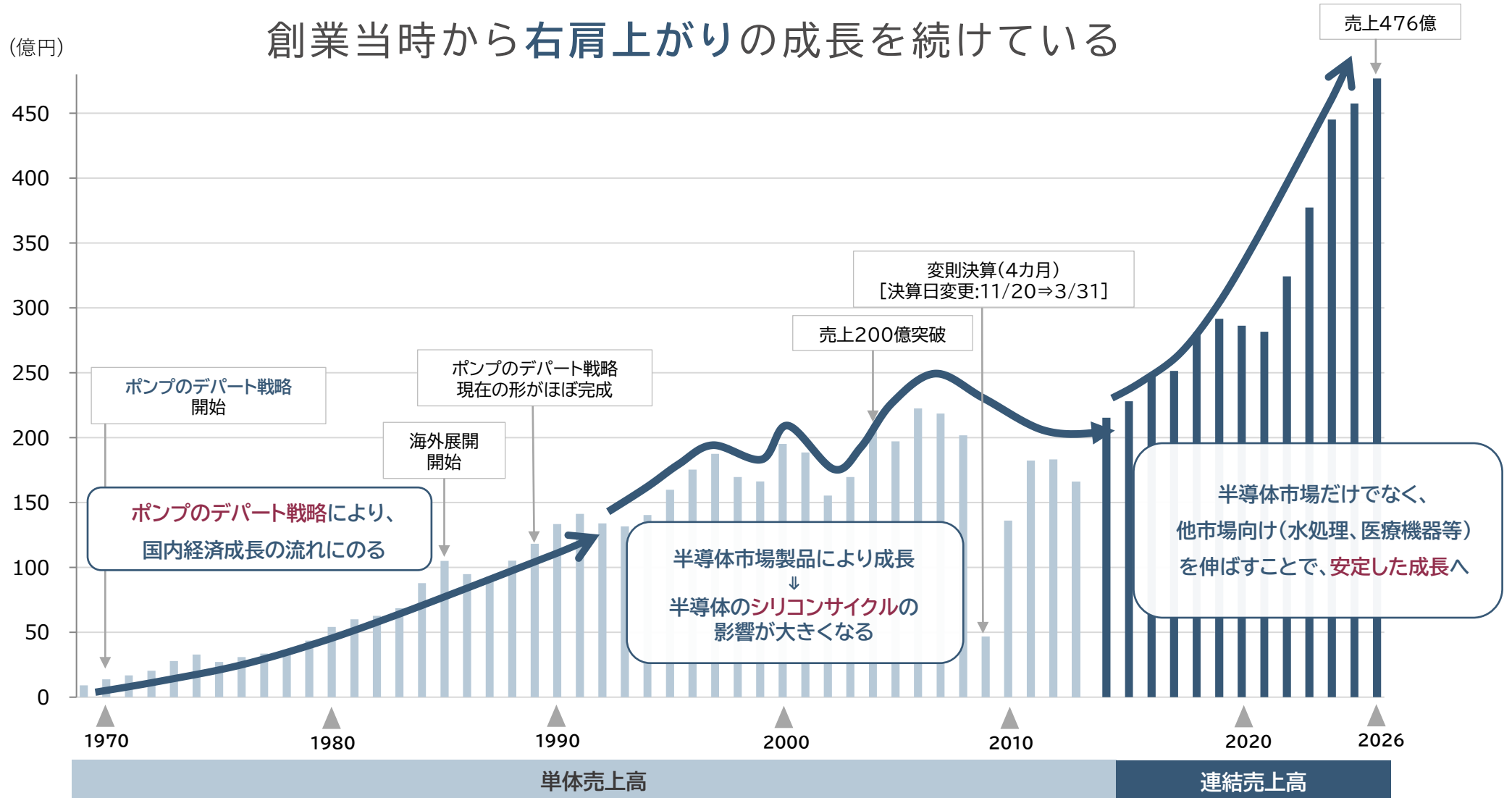
水を扱うポンプとは異なり、ケミカルポンプは主に薬液等の移送・注入時に使用される。
薬液の中には人体に有害な硫酸等の危険な液体もある。

その為、ケミカルポンプには、

非常に高い **安全性** が求められる
(薬液が外部に漏れないこと)



創業当時から右肩上がりの成長を続けている



- 1 豊富な製品ラインナップ
- 2 ビジネスフィールドの広さ
- 3 世界規模の生産・販売・サポート体制
- 4 流体制御技術によるソリューション提供

あらゆる業界・現場の流体制御ニーズに、ワンストップで応える

種類

マグネットポンプ

定量ポンプ

空気駆動ポンプ

回転容積ポンプ

エアーポンプ

大

サイズ

小

競合

A社

中小型のみ

B社

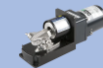
大型のみ

C社

中小型中心

D社

限定した種類・製品サイズを取り扱う
他社とは一線を画している



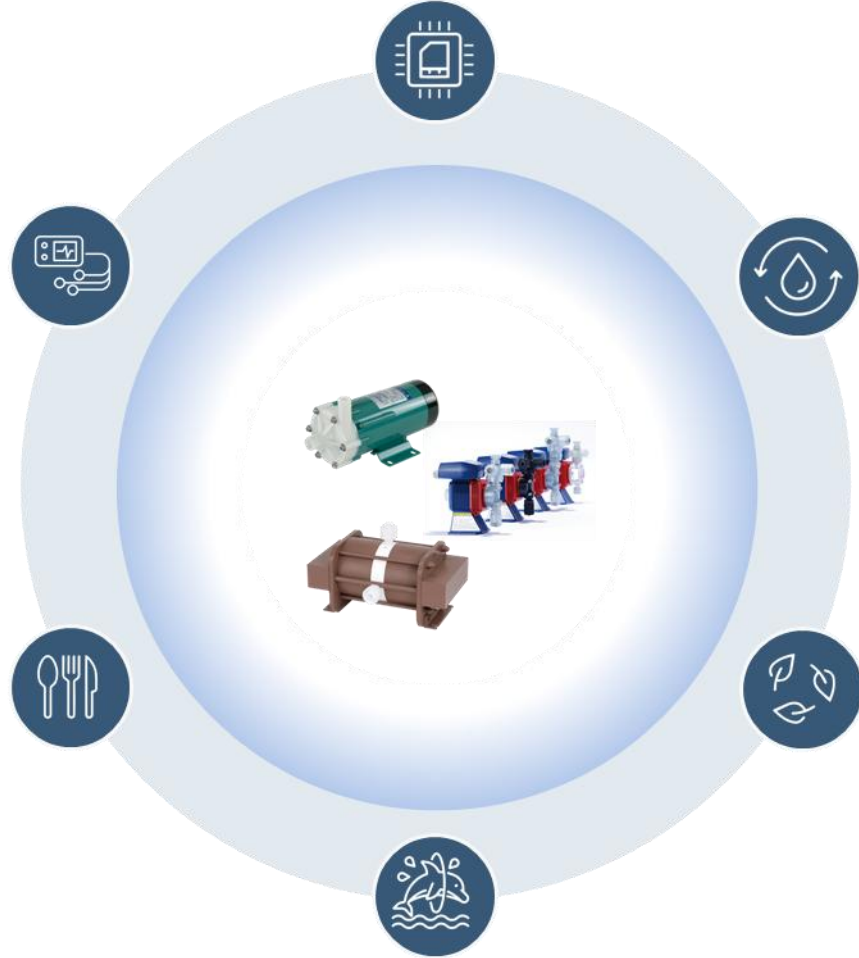
医療機器市場



食品市場



アミューズメント市場



半導体・液晶市場



水処理市場



新エネルギー市場

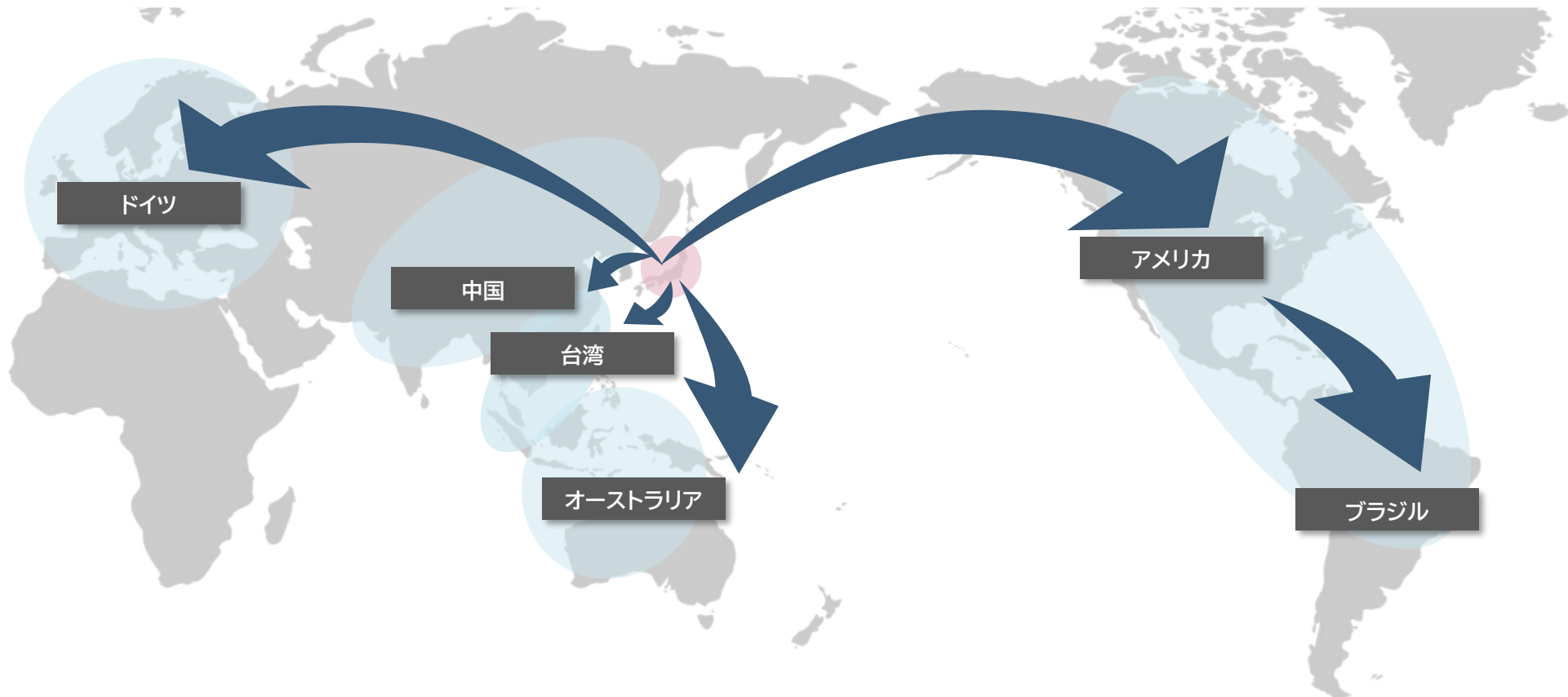


多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

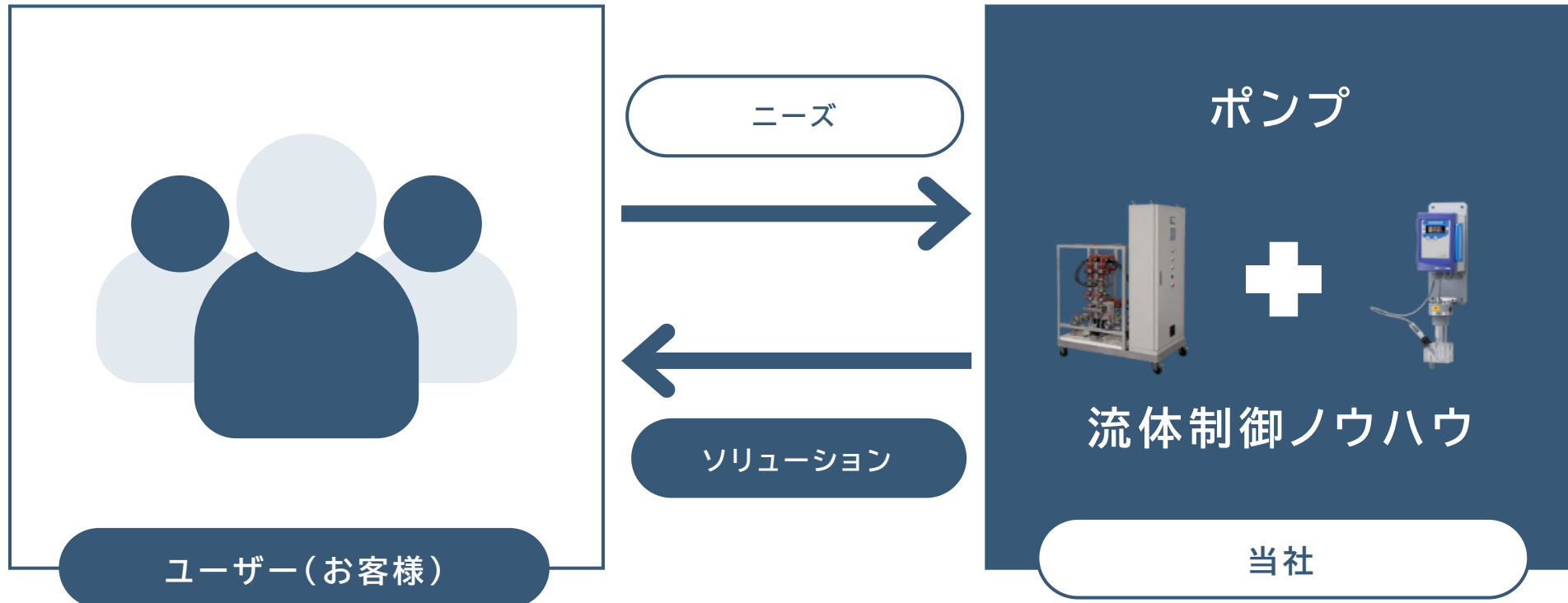
国内:多品種少量生産に対応した強固な品質保証体制

海外:6拠点でのノックダウン生産*による短納期化・在庫効率向上

(*ノックダウン生産…製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



お客様のニーズにあったソリューションを
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供



廃水処理装置を、モニタリングだけでなく緊急時の操作も遠隔で行いたい…
ヨーグルトと果肉ソースを、果肉をつぶさずに混ぜたい…

etc.



The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

本内容に関するお問い合わせ先について

担当部署 : 総務本部 総務部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分 ※土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く